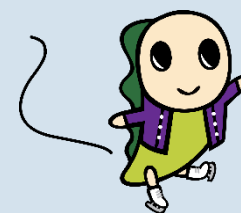


子どもからの意見聴取の取組・内容について（報告）

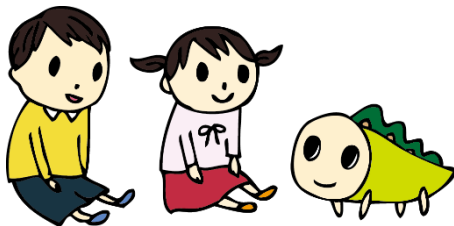
1. 子ども日本語教室（小学生）での意見聴取（9月27日）＜2 p＞
2. 小学校意見交換会及び出前授業の実施報告
 - － 1 天沼小学校（10月10日）＜3 p＞
 - － 2 済美小学校（10月26日事前授業・10月31日意見交換会）＜4 p＞
 - － 3 浜田山小学校（12月4日）＜5 p＞
 - － 4 永福小学校（12月5日）＜6 p＞
 - － 5 松庵小学校（12月15日）＜7 p＞
3. 「すぎなみフェスタ」への出展・意見募集（11月4日）＜8・9 p＞
4. 「子どもワークショップ」について＜10 p＞
 - － 1 第1回（11月19日）の実施報告＜11・12 p＞
 - － 2 第2回（12月16日）の実施報告＜13・14 p＞
5. 区ホームページ及び児童館・学童クラブ等における意見募集＜15 p＞＜別添資料4－5＞



1. 子ども日本語教室（小学生）での意見聴取（9月27日実施）

杉並区、杉並区交流協会及び杉並区教育委員会が協力し、令和5年1月から開講した「子ども日本語教室」に通っている外国にルーツを持つ子どもたちのうち、小学生（高円寺教室）を対象に意見聴取を実施しました。

- 日本語の習熟度や初対面の大人とも話せるという観点等から、事前に声をかけた小学3年生2名、小学4年生2名の計4名が参加しました。（国籍は、中国、モンゴル、ネパール）
- 意見聴取は、子ども2名と職員2名、サポート役1名の計5名を1グループとし、「学び」「遊び・居場所」「意見を言う」に関連する質問をし、子どもたちから普段感じていることを素直に自由に答えてもらいました。
- 日本語を母語とせず、日本語の習得が不十分な子どもは、意見表明の手法の選択肢や機会が限られることから声をあげにくい状況にあり、聴く側の工夫や配慮が特に必要とされるという点を考慮して以下の工夫をしました。
 - ・ リラックスした雰囲気子どもたちが話せるように、いつも通っている教室を会場としました。
 - ・ 普段から、教室の子どもと関わっている杉並区交流協会職員もサポート役としてグループに加わりました。



子ども日本語教室（小学生）での意見聴取実施報告書を区ホームページに掲載しています。

https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/089/766/houkokusyo_kodomonihonngo_syogakusei.pdf

2-1. 天沼小学校意見交換会 (10月10日実施)

子ども家庭部と教育委員会の職員や学校運営協議会委員、子どもの権利擁護に関する審議会委員4名がグループに加わり、子どもたちとの交流を深めながら、テーマに沿って意見交換を行いました。

- 6年生全員が参加。1組～3組を18グループに分け、子ども5・6名に対し大人1名が加わりました。
- 冒頭に意見交換会の趣旨やテーマについて教育委員会職員から説明をした後、テーマ「安心できる場所はどこか？」について、個人ワークで考えてから理由も含めてグループに共有しました。

意見抜粋

- ・学校や家 【理由】その日にあったことや悩み事を友達や家族に話すと気持ちが落ち着く。
- ・図書室、理科室 【理由】一人で好きなことに集中して取り組むことが楽しい。
- ・信頼できる人がいるところ 【理由】困ったときに頼れる人がいると穏やかな気持ちになる。
- ・自然が多いところ 【理由】大自然の中、何も考えずにボーっとしていると気持ちがすっきりする。



- 「安心できる天沼小学校はどこか?」、そのために「(1)自分たちにできること」「(2)先生たちにしてほしいこと」「(3)地域の方をお願いしたいこと」という3つの視点から意見を出し合い、全体に向けて発表しました。

意見抜粋

- ・今みたいに楽しい学校 【理由】しーんとしていると寂しく、不安な気持ちになる。
- ・校則が厳しすぎず、ルールをみんなで決めてみんなで守れる学校 【理由】子どもが中心で、みんなが安全に楽しく過ごせる学校にしたい。
- ・信頼できる人がいるところ 【理由】困ったときに頼れる人がいると穏やかな気持ちになる。
- ・先生やスクールカウンセラーにいつでも悩みごとを話せる学校 【理由】悩み事を聞いてもらえると不安な気持ちがなくなりスッキリする。

【自分たちにできること】

- ・悩んでいそうな人、困っている人に声をかける 【理由】不安な気持ちを一人で抱え込まず、みんなが安心できるようにするため。
- ・「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を意識する 【理由】自分勝手にならず、お互いに気遣うことが大事だと思う。

【先生たちにしてほしいこと】

- ・意見を出し合う場を作ってほしい 【理由】自分たちで意見を出し合いながらクラスをつくりたい。
- ・先生も一緒に遊びに参加してほしい 【理由】先生が参加してくれると特別感があるし、クラスの雰囲気も明るくなる。

【地域の人にしてほしいこと】

- ・気軽にあいさつしてほしい 【理由】街中で自分からあいさつするのは勇気がいるから。
- ・学校のイベントをサポートしてほしい 【理由】先生は子どもの安全を守ってくれるので、地域の人には一緒にイベントに参加しながらサポートしてほしい。



天沼小学校意見交換会の様子を区ホームページに掲載しています。

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/kyouiku/keikaku/ikenkokan/1090259.html>

2-2. 済美小学校意見交換会 (10月26日事前授業・10月31日意見交換会実施)

<事前授業>

意見交換会に先立ち、子どもたちを取り巻く状況や杉並区の取組について説明するため、子ども家庭部と教育委員会職員による事前授業を行いました。

- 6年生全員と、校長先生、6年生の担任の先生が参加しました。
- 子ども家庭部からは、「子どもにやさしいまちって、どんなまち？」というタイトルで、子どもの権利条約やこども基本法、杉並区の子どもの権利擁護に関する取組等について紹介し、これまで以上に子どもの思いや考えを聴いて大切にしながら区取組を進めていきたいと考えていることを話しました。

<意見交換会>

子ども家庭部と教育委員会の職員のほか、学校運営協議会委員、PTA役員、近隣町会・自治会の会長、子どもの権利擁護に関する審議会委員3名が子どもたちのグループに加わり、意見交換を行いました。

- 6年生全員を7・8名ずつの8グループに分け、大人が3名ずつ加わりました。
- 「あなたはどんな学校をつくりたいですか？」と、済美小の教育目標「済美小の大事な一人になろう」、「みんなと生きる済美の子」を実現するために自分たちにできること、やるべきことは何かについて、子どもたち一人一人の思いや考えを聴いてから質問したりグループで意見交換を行いました。
- 最後に参加した大人から、意見交換会の感想を発表しました。

意見抜粋

【どんな学校をつくりたいですか？】

- ・ささいなことでも「ありがとう」と言える学校 【理由】「ありがとう」と言われるといい気持ちになるから、相手にもそう思われるようなことをしたい。
- ・下級生にやさしい学校 【理由】やさしくされると楽しく学校に来ることができるから。
- ・ちゃんとあいさつができる学校 【理由】あいさつすると明るくなれるし、お互いの距離も縮まるから。

【済美小の大事なひとりになろう、を実現するために自分たちにできること】

- ・チクチク言葉を言わないようにする 【理由】人を傷つけるような言葉は、言われた相手も嫌な気分だし、言った自分も罪悪感を感じていいことないから。
- ・困っていることを話す 【理由】人に言うことで解決できることもあるし、モヤモヤした気持ちがなくなるから。

【みんなと生きる済美の子、を実現するために自分たちにできること】

- ・少数意見に耳を傾ける 【理由】多数決だと、少数派の意見は入らなくなってしまうから。
- ・仲を深める 【理由】自分と違う人がいても、そういう人と交流できればおもしろいと思うので、仲良くなるきっかけがあるといい。



2-3. 浜田山小学校意見交換会 (12月4日実施)

子ども家庭部と教育委員会の職員、子どもの権利擁護に関する審議会委員2名がグループに加わり、子どもたちとの交流を深めながら、テーマに沿って意見交換を行いました。

- 栽培委員会と生活向上委員会で活動する5・6年生児童35名が参加。参加児童を5名ずつ7グループに分け、各グループに大人1名が加わりました。
- 冒頭に意見交換会の趣旨と、子どもの権利条約や杉並区教育ビジョンについて教育委員会職員から説明をした後、1つ目のテーマ「子どもってだけで損をしていること」「大人だけずるいていること」について、グループで考えを言い合いました。

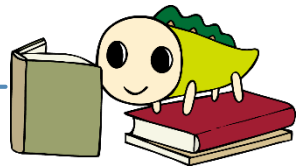
意見抜粋

- ・ビールとかお酒を飲んでみたい。 ・自分のやりたいことを自分で決めたい。 ・お金を稼いで、好きな物を買いたい。
- ・子どもがご飯をこぼすと大人はすぐに怒るけど、自分(大人)がこぼしても怒らない。
- ・経験が浅いから、やりたいことや自分の気持ちをうまく伝えられずに大人を頼ることが多いが、結局は大人が決めてしまい子どもの思いと違うことになる。

- 続いて「安心できる場所や時間帯」「ホッとする場所や時間帯」を考えてグループで共有しました。

意見抜粋

- ・図書館や本屋 【理由】本が好きな自分にとって、好きな物に囲まれていると安心する。
- ・教室 【理由】教室で先生やクラスメイトとおしゃべりするとホッとした気持ちになる。
- ・ふくにわ(永福町駅のショッピングモールにある屋上庭園) 【理由】夕日がすごくきれいで気分が癒される。もっとみんなにも知って欲しい!
- ・算数の難しい問題が溶ける瞬間 【理由】頭がスカッとしてすごく気分が良くなる。



- 最後に安心できる浜田山小学校をつくるために、「自分たちにできること」「先生や地域、杉並区にしてほしいこと」の2つのテーマから考えてグループで共有し、最後に全体発表を行いました。

意見抜粋

【自分たちにできること】

- ・自分から積極的にあいさつする 【理由】生活向上委員会みんながあいさつをすることで、先生や地域の人みんながあいさつできるとよいと思った。
- ・縦割り班活動のときに、自分より小さい学年の子に声をかける 【理由】上級生から声をかけることで、下級生にも安心して学校生活を送ってもらいたい。

【先生たちや地域、杉並区にしてほしいこと】

- ・全校生徒が参加する行事・イベントを増やしたい 【理由】縦割り班活動以外にも、下級生から上級生までが交流したい。
- ・いろいろな先生と話したい 【理由】担任の先生だけではなく、たくさんの先生と会話してお互いを知りたい。
- ・今も地域の人はいろいろなことをしてくれていると思う 【理由】この前の開校70周年式典に地域の人がたくさん来てくれた。桜の木を植えたり体育館のスクリーンなどを寄贈してくれたりしたと聞いた。通学路にシルバーさんが立っていてくれたり、普段から地域の人にお世話になっている。

2-4. 永福小学校出前授業・意見交換会（12月5日実施）

永福小学校6年生児童約100名を対象に、授業の前半20分間で子どもの権利擁護に関する審議会 野村会長による子どもの権利に関する出前授業（インプット）を、後半の時間で「こどもにやさしいまちってどんなまち」「好きな場所ってどんなところ？」の2つのテーマで意見交換会を行いました。

<出前授業>

- 「子どもの権利について考えてみよう」では、権利とは当たり前生きるために持っているものという説明を聞いて、自分たちが持っている当たり前なもの（権利）や子どもの権利条約の4つの権利について考えたり、子どもの権利を守るために大人が大切にして約束していることについて学びました。
- 「子どもの権利条例について考えてみよう」では、子どもの権利条例は、「きまり」だけど、区が子どもに約束をするきまりであり、子どもの権利を守って子どもにやさしいまちをつくらう、というきまりが「子どもの権利条例」であると説明がありました。杉並区でも子どもたちの意見を聴きながら条例を作ろうとしているので、この後の意見交換会で皆さんの意見を聴かせてほしいとアナウンスしました。

<意見交換会>

6年生全員を6名ずつの15グループに分け、子ども家庭部と教育委員会の職員のほか、子どもの権利擁護に関する審議会委員3名の計15名の大人が子どもたちのグループに1名ずつ加わり、野村会長の進行のもと各グループで意見交換を行い、最後は全体発表で意見を共有しました。

意見抜粋

【子どもにやさしいまちって、どんなまち？】

- ・色々な経験自ら進んで体験することのできるまち 【理由】自分で動いて知っていくことが自立につながり、大人になって自信がついて人生で役立つと思う。
- ・自由なまち 【理由】やりたいことを制限されるのはやさしくないと思うから。
- ・間違っても許してくれる 【理由】ただ怒るだけではなくて、次にチャンスをくれると頑張れるから。



【好きな場所って、どんなところ？】

- ・家の台所 【理由】自分は料理をするのが好きだから。好きなことが出来るのは嬉しい。
- ・身動きができる狭いところ 【理由】すみっこでぴったりした感じは敵がいなくて安心。誰もいないよりは人の気配をちょっと感じる場所がいい。
- ・公園 【理由】野球ができるから。バットが使えないからキャッチボールしかできないから使えるといい。親や友達に言ってみただけ使えないようにはならない。

2-5. 松庵小学校出前授業・意見交換会 (12月15日実施)

松庵小学校5年生児童73名を対象に、3時間目に子どもの権利擁護に関する審議会 野村会長による子どもの権利に関する出前授業(インプット)を、4時間目に「好きな場所ってどんなところ？」のテーマで意見交換会を行いました。

<出前授業>

- 「子どもの権利について考えてみよう」では、人には誰にでも権利(人権)があること、人によって権利の重さに違いはなく誰にでも等しく権利(人権)があること、権利とは当たり前生きるために持っているものという説明を聞き、自分たちが持っている当たり前のもの(権利)を付箋に書いて子どもの権利条約の4つの権利であてはまるところに分類して貼りました。
- 次に、公園に1つしかないブランコの事例を使い、ブランコに乗っているAさん、乗りたくて並んでいるB~Dさんそれぞれの立場だったら自分はどうか、なぜそうするのかという理由を考えて発表しました。自分と相手の立場にたって考えてみることで、乗っている人と待っている人のどちらにも権利はあること、権利を使うには「代わって」の意見表明も大切なことなど、身近な事例を通して自分の権利や権利の尊重について学びました。
- 「子どもの権利条例について考えてみよう」では、子どもの権利条例は、「きまり」だけど、区が子どもに約束をするきまりであり、子どもの権利を守って子どもにやさしいまちをつくろう、というきまりが「子どもの権利条例」であると説明がありました。杉並区で条例を作ろうとしているので、この後の意見交換会で皆さんの意見を聴かせてほしいとアナウンスしました。



<意見交換会>

5年生全員を5名ほどの15グループに分け、子ども家庭部の職員のほか、子どもの権利擁護に関する審議会委員4名と学校運営協議会委員4名の計15名の大人が子どもたちのグループに1名ずつ加わり、野村会長の進行のもと各グループで意見交換を行い、最後に全体発表で意見を共有しました。

意見抜粋

【好きな場所って、どんなところ?】

- ・大きな公園(犬が入れてバットやボールが使ってスケボーもできて遊具がある)
【理由】犬も走れて友人と一緒に遊ぶ。家族が多いと大きい公園がよい。
- ・みどりがたくさんある公園 【理由】木がたくさん生えていたらかくれんぼができる。
- ・家 【理由】家族がいてほっこりするから。自分の好きな物に囲まれているから。
- ・駄菓子屋さん 【理由】自分で好きなお菓子が買える。おもちゃをくれたりもする。
- ・ダンス教室 【理由】家だと踊れないから。好きな音楽を流せるから。



3. 「すぎなみフェスタ」への出展・意見募集 (11月4日実施)

桃井原っぱ公園で開催された「すぎなみフェスタ」に出展し、子どもの権利や「(仮称)杉並区子どもの権利に関する条例」の制定を見据えた取組の周知と、2テーマについて来場者から幅広く意見募集を行いました。

周知

- テント内に、子どもの権利条約の4原則やこども基本法、杉並区の取組をまとめたパネルを作成し、展示しました。また、同様の内容を記載したチラシと、名入れウェットティッシュを来場者に配布しました。
- 意見を書いたカードと引き換えに、カプセルトイを回してもらいました。カプセルには、「子どもの権利条約の4原則」の条数(2、3、6、12)と「なみすけ」をデザインした缶バッジ、子どもの権利条約を説明したチラシを入れました。



パネルとチラシ



ウェットティッシュのふた

子どもの権利条約4原則ガチャ

意見募集

- 2つのテーマ(「子どもにやさしいまちってどんなまち?」「好きな場所ってどんなところ?」)について、カードに意見を書いてもらってパネルに貼り、気球と紅葉した大木を完成させました。



意見カードのパネル
左が気球、
右が紅葉した大木

【いただいたご意見(抜粋)】

テーマ1: 子どもにやさしいまちって、どんなまち?

- ・いろんなひとがたのしくなかよくあそべるまち(小学生)
- ・はんざいとかがない(小学生)
- ・事件や火災がない町。子どもたちが楽しいと思える日々が続く町(中学生)
- ・子どもがワクワクするイベントがいっぱい。
- ・安全にすごせて自由に発言できて子どもの意見を親身に聴いてくれる大人がたくさんいるまち

テーマ2: 好きな場所って、どんなところ?

- ・公園(小・中学生、大人ともに多数)
- ・自分の家(リビング・ベッド)、消防隊、ばーばんち、楽しい場所 等 (小学生)
- ・学校、友達と会えるから(中学生)
- ・緑あふれる公園、緑や花の多い場所
- ・自由にスポーツができる場所
- ・家、家族と犬がいて友人がまわりにいる場所
- ・大人が子どもを自然に見守ってくれる場所

当日の様子を写真でご紹介します



担当6名が従事しました



意見を貼ったパネル



4原則紹介パネルと景品一覧



缶バッチのカプセルトイ



子どもの権利条約の認知度と、条約の4原則のうち特に大切にしたい考え方について、来場者アンケートを実施しました



条約4原則にちなんだ缶バッチ



区長も参加しました



カプセルトイは大人気でした



取組紹介パネル

4. 「子どもワークショップ」について

子どもの権利について理解を深めたうえで、自分たちが普段過ごしたり使ったりしている場所や施設など区内の「子どもの居場所」の現状を調べたり、あったらいいなと思う居場所についてグループワークで話し合ったりしながら意見をまとめ、最終回に区長に向けて発表する全4回のワークショップです。

●開催日時

- 終了 ① 令和5年11月19日(日) 13:30~16:30
 終了 ② 令和5年12月16日(土) 14:00~17:00
 日時変更 ③ ~~令和6年2月23日(祝・金) 9:30~12:30~~ → 令和6年3月3日(日) 13:30~16:30
 日時確定 ④ 令和6年3月24日(日) 9:30~12:30
 ⑤ 令和6年3月30日(土) 9:30~12:30



●対象・募集人数：区内在住・在学中で小学4年生～高校生の年代の方 15名

●テーマ：「子どもの権利について知り、もっといい杉並にしていこう」

令和5年10月1日から広報すぎなみ及び区ホームページ、公式X(旧twitter)、区立小中学校及び区内都・私立高等学校へのポスター掲示等による周知を行ったところ、定員15名に対し10名(うち1名後日辞退)の申し込みがありました。

申込者内訳

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
人数	4	0	1	0	2	3	0	0	1

※学年は世代を含みます。

4-1. 「子どもワークショップ」第1回の実施報告 (11月19日実施)

日時：令和5年11月19日（日）13時30分～16時30分 場所：児童青少年センター（ゆう杉並）集会室
参加者：9名（内訳は下記のとおり）

参加者内訳

学 年	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
人 数	2	0	1	0	2	3	0	0	1

当日の流れ：

13:00 受付

- ・自分が呼ばれたい名前で名札を作成しました。
- ・待っている間は講師2人がゆるトークを担当し、場を和ませました。

13:30 開会

- ・開会挨拶、ワークショップの趣旨説明に続き、アイスブレイクで後出し負けじゃんけんをしました。大人も参加し、盛り上がりました。



アイスブレイク

13:45 第1部

ゆう杉並について
説明

- ・ゆう杉並の設置に至った経緯や子どもの意見を尊重した運営について等について等の説明を聞きました。
「大人が考えた、これは子どもが面白いと思うだろうということが、子どもにとっては面白くないと感じることが多い。」という考えから、ゆう杉並では施設を使う子どもに意見を聴き、子どもたちがルールや企画を決めています。
(講師：児童青少年課小田係長)



施設見学①

ゆう杉並内の
見学

- ・職員の案内で、ゆう杉並内を見学しました。
(子どもの意見を反映した箇所など)



休憩中

14:30 休憩

- ・名札の台紙色で3グループに分かれた後、お菓子を食べながらグループで雑談して休憩しました。



施設見学②

14:45 第2部

講義：子どもの権利について考えてみよう

- ・ワークショップでの約束事を確認し、野村先生の講義が始まりました。「権利ってなんだろう？」の問いに対し「生まれたときから当たり前生きるために持っているもの」という説明があり、何があるかを個人で考えて付箋に書き出しました。その後、全体に向けて発表しました。

- ・子どもの権利の基本的な柱となる4つの権利には何があるか、イラストを見ながらみんなで考えました。正解発表（生きる、育つ、参加する、守られる）の後、グループごとに4つの権利を付箋に書き、模造紙に貼りました。

- ・先ほど個人ワークで考えた「当たり前生きるために持っているもの」が、基本的な4つの権利の柱のどれに当てはまるのか、グループごとに模造紙に貼っていきました。貼り終わった後は他のグループを回ってお互いに模造紙に貼られた付箋を確認し合い、足りない考え方を追加するなどまとめを更に深めていきました。

- ・10分間の休憩をはさみ、グループごとに「なんでやねん！すごろく」をグループごとにやりました。「なんでやねん！すごろく」は、「子どもの権利条約」を知るために、関西の子どもたちが作ったすごろくで、子どもたちの日常の中の「なんでやねん！」が詰まったゲームです。

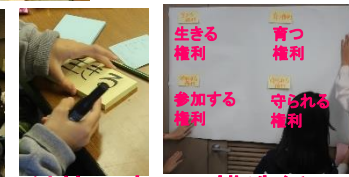
- ・サイコロを振り「なんでやねん！」のマスに止まると「なんでやねん！カード」を1枚引き、「子どもには食べさせないおいしいお菓子を、大人だけ夜に食べている」等の日常的に「あるある」と感じることが書かれているので読み上げます。読み上げた後、全員で「なんでやねん！」と突っ込み、カードは影響を受けている権利に紐づけて権利シートに置きます。

- ・そのほか、権利条約を読み上げるとキラキラの石がもらえたり、早口言葉や歌を歌うマスもあり、楽しみながら子どもの権利と日常を関連づけて考えることができるすごろくで、大いに盛り上がりました。

次回のワークショップは、12月16日(土)14時～17時です。

「権利ってなんだろう？」

自分の考えを発表



4つの権利を考え中 付箋に書いて模造紙へ



他グループの考え方は？

分類しているところ



カードを読み上げて...



「なんでやねん！」



最後に集合写真を撮りました

4-2. 「子どもワークショップ」第2回の実施報告 (12月16日実施)

日時：令和5年12月16日（土）14時～17時 場所：杉並区役所 第5・6会議室
参加者：8名（内訳は下記のとおり）

参加者内訳

学 年	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
人 数	2	0	1	0	2	2	0	0	1

13:45 受付

14:00 開会

14:15 第1部

講義「子どもの居場所」について考える

ワーク1
「ほっとできる場所」

ワーク1
全体発表

15:00 休憩

14ページに続く

- ・自分が呼ばれたい名前で名札を作成しました。
- ・半サークル状の好きな席に座り、講師を中心にゆるトークをしながら開会を待ちました。
- ・開会挨拶、ワークショップの趣旨説明に続き、前回同様に後出し負けじゃんけんのアイスブレイクを行いました。前回より勝ち残る人が増えて盛り上がりました。
- ・事前課題で考えて来た「日頃の生活の中のなんでやねん！」を発表して、みんなで「なんでやねん！」の突っ込みを入れました。
- ・グループ分けはあみだくじで決めました。縦線だけのあみだくじに、子どもたちに好きなだけ横線を入れてもらい、1本ずつなぞっていきました。細かい波線や斜め線など、決まりそうでなかなか決まらないところが盛り上がりました。
- ・2グループに分かれて座り、野村先生の講義「子どもの居場所」について考える」を聞きました。居場所とは、子どもが自分らしくいられるために大切な場所、「ほっとできる場所」だと説明があり、ワーク1でみんなのほっとできる場所を出しあうことにしました。
- ・各グループの机に模造紙をセットして、はじめに個人でほっとできる場所を好きなように書き出し、その後、なぜその場所がほっとできる場所なのか理由と結び付けて考えました。
- ・個人ワーク後、グループ内で自分が書いたものを発表して共有しました。野村先生から「自分が書いた中から2つ選んで自慢大会をしよう。」と声掛けがあり、全体発表用に自分のほっとできる場所をA4用紙に書いて、「私の好きな場所は〇〇です。理由は〇〇だからです。」と1人ずつ前に出て発表しました。

<ほっとできる場所（抜粋）>

ベッド（安心して寝れる）、学校（友達がいて話せる、遊べる）、お風呂（自由・安心）
図書館（好きな本が読める）、カフェ（静か、暖色系）、羽田空港（好きな乗り物）

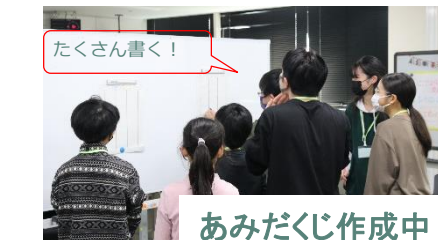


アイスブレイク



なんでやねん！

課題発表



たくさん書く！

あみだくじ作成中



誰だ？この細かい波線は？

結果発表中

15:10 第2部

ワーク2
家や学校の「あるある」

15:55 休憩

ワーク2
全体発表

まとめ
杉並区のすごろく
を作ろう

16:45 閉会

次回のワークショップは、
3月3日(日)
13時30分～14時30分です。

- ・ワーク2では、ワーク1の発表が多かった「家」「学校」で、「変だな」(前回のなんでやねん!すごろくの、なんでやねん!につながるもの)や、「いいよね!」を考えて、自由に模造紙に書き出していました。(1班は「家」、2班は「学校」、大人班は「その他の場所」)

- ・それぞれが書いた「あるある」をグループ内に発表して共有して、意見が一致しているものに丸をつけました。その後、テーマを交換して同じように個人ワークとグループ内での共有を行いました。

(1班は「学校」、2班は「家」、大人班は「その他の場所」を追加)

- ・グループで書いた模造紙を見せながら、1・2班それぞれの「家」と「学校」の「あるある」を前に出て発表しました。
- ・いろいろと共感する点が多く、お互いの発表をうなずきながら聞いていました。

〈あるある(抜粋)〉 参考資料 4-2取組発表内容一覧を参照

- ◆家
 - ・わからないところを教えてくれる。
 - ・親はテレビを見るのに、ぼくはダメと言われる。
 - ・歳を重ねるごとに家族の時間が減る。
- ◆学校
 - ・友だちがやさしい。
 - ・「静かになるまで〇分かかりました。」
 - ・生徒にダメと言ったことを先生がやる。

- ・発表で出たたくさんのお話を、大人やいろいろな人に伝えていくために、杉並区の居場所の「なんでやねん!」「いいことあるある!」のすごろくを作り、ワークショップ最終回で発表します。

- ・すごろく作成と発表に向けて、「悪いことなんでやねん!」と「いいことあるある」とを考えたり、取材をしたりしてさらに集めてくることを次回までの課題としました。

ワーク1「ほっとできる場所」



グループで共有



1班「学校あるある」発表



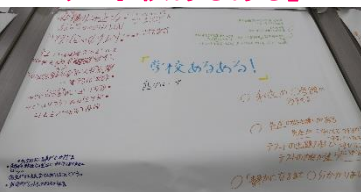
2班「家あるある」発表



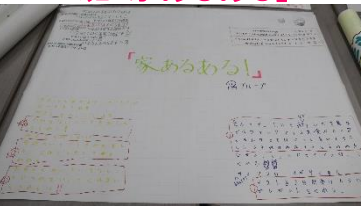
模造紙に自由に書き出す



1班「学校あるある」



2班「家あるある」



最後に集合写真を撮りました



おまけ
大人「その他の場所」発表



5. 区ホームページ及び児童館・学童クラブ等における意見募集 (11月4日～12月31日)

桃井原っぱ公園で開催された「すぎなみフェスタ」で行った意見募集と同様の2テーマで、区ホームページ及び区内児童館・学童クラブ等において意見募集を行いました。(結果及び意見は資料4-5を参照)

区ホームページ: 令和5年11月4日～12月31日

- 対象
杉並区在住・在勤・在学の方
- 区ホームページ及び
広報すぎなみへの掲載、
区内掲示板や区立施設への
ポスター掲示及びチラシ配布
等で周知
- 回答はLogoフォーム

子どもの 皆さんの 大人の
声を聴かせてください

テーマ 1 子どもにやさしいまちって、どんなまち?

テーマ 2 好きな場所って、どんなところ?

ご意見はこちらから

意見募集期間
令和5年11月4日(土)～令和5年12月31日(日)

対象
杉並区在住・在勤・在学の方(年齢は問いません)

区では基本構想の子ども分野の目標に掲げた「すべての子どもが、自分らしく生きていくことができるまち」の実現に向けて、子どもや大人の方から意見や思いを聴きながら「(仮称)杉並区子どもの権利に関する条例」の制定を見据えた取組を進めています。現在、区のホームページでは、上記のテーマで意見を募集しています。ぜひ、皆さんの声を聴かせてください。集まった声は「杉並区子どもの権利擁護に関する審議会」に届けていきます。

「子どもの権利に関する条例の制定を見据えた取組」(子どもの権利擁護に関する審議会での議論や、子どもから意見を聴く取組の実施状況など)について、区ホームページに掲載しています。

杉並区子ども家庭部子ども政策担当
03(3312)2111(代表)

児童館・学童クラブ等: 令和5年11月22日～12月31日

- 掲示施設
ゆう杉並、児童館、
子ども・子育てプラザ、
学童クラブ(単独・委託)、
放課後等居場所事業
- 回答用紙に記入

子どもにやさしいまちって、どんなまち?

好きな場所って、どんなところ?

投稿受付中!!

みんなの声を聴かせて

方法 かんたん! 3ステップ

- ① テーマを選ぼう
- ② 用紙に思いと理由を書こう
- ③ 書いた紙はこのふうとうの中に入れてね

集めている期間
令和5年
11月4日(土)
～12月31日(日)

言える人
杉並区に、住んでいる人、
学校に行っている人、働いている人
(なんぞの人が書いてもいいよ!)

杉並区では、子どもや大人から意見や思いを聴きながら「(仮称)杉並区子どもの権利に関する条例」の制定を見据えた取組を進めています。ぜひ2つのテーマについて、みんなの声を聴かせてください。集まった声は「杉並区子どもの権利擁護に関する審議会」に届けていきます。

杉並区 子ども家庭部管理課子ども政策担当 ☎03-3312-2111(代表)